

地方上級の論文試験

① 試験の特徴

- 制限時間や規定文字数については、自治体によって異なるので、募集要項やホームページ、公務員のライトのデータベースなどでチェックしておこう。
- 都道府県や政令市の論文試験では、その多くが「論文形式」で出題されるが、市町村の論文試験では「作文形式」で出題される場合もある。
※「論文形式」とは、主に課題式論文のことで、おもに行政の施策や取組について問われる。「作文形式」とは、自分自身の経験や考えについて問われる。



公務員のライトデータベース

② 直近3年間の出題テーマランキング

都道府県庁		政令市等	
1位	地方創生・地域の活性化	1位	高齢社会対策・少子化社会対策
2位	自治体のDX 地域社会のデジタル化	2位	自治体のDX 地域社会のデジタル化
3位	高齢社会対策・少子化社会対策	3位	地方創生・地域の活性化
4位	行政課題全般	4位	行政課題全般
5位	女性の活躍	5位	災害対策
6位	地域コミュニティの活性化	6位	多文化共生社会の実現
7位	災害対策	7位	カーボンニュートラル
8位	多文化共生社会の実現	8位	女性の活躍
9位	カーボンニュートラル	9位	地域コミュニティの活性化
10位	その他の行政課題	10位	その他の行政課題

- 直近3年間の都道府県と政令市の出題テーマランキングである。どちらも、似たような傾向にある。特に、頻出テーマの上位3テーマについては、しっかりと準備をしておこう。
- 「行政課題全般」というテーマは、問題文の問いが抽象的で、いろんな視点で書くことができるため、本試験で出題された際に、慌ててしまわないように準備しておこう。詳しくは、後述の「行政課題全般」で解説している。
- 上記以外のテーマについても、簡単にポイントをまとめておき、試験直前に見直すことで穴を無くそう。それでは、ここから各出題テーマの「ポイント」と「実際の過去問」をみていこう。

テーマ：地方創生・地域の活性化

テーマのポイント	「少子化による人口減少」と「若い世代の人口流出」が進むと、地域社会の持続可能性が問題となる。そこで、人口減少に歯止めをかけるために、移住の推進、UIJターンの促進、企業の誘致、関係人口の拡大など、若い世代の地域定着や、人々を地域に呼び込む取組について問われている。詳しくは、本書のテーマ⑪⑫⑬で解説している。
過去問(概略)	- 新型コロナウイルスの感染拡大を契機に東京一極集中の社会構造の問題が改めて明らかになるとともに、地方移住への関心が高まっていると言われています。こうした状況を踏まえ、今後、地方創生の実現に向けて、県はどのようなことに取り組むべきか、あなたの考えを述べなさい。 - 山形県では、高等学校卒業後や大学卒業後における若者の地元定着への取組みを推進しているが、施策が求められる背景と県が取り組むべき具体的な施策について、あなたの考えを述べなさい。 - 富山県では、「幸せ人口1000万〜ウェルビーイング先進地域、富山〜」を目指しています。どのような取組みをすれば、富山県に関わる仲間が増え、集積するようになるか、あなたの考えを述べなさい。 - 昨年実施された県政世論調査において、県の取り組みで努力が足りないと思う分野として「若者の県内定着」との答えが最も多かった。あなたが自治体の担当者だったら、若者の県内定着を図るため、どのような取り組みを行うか述べなさい。 - 本県の人口は、平成10年を境に減少傾向にあり、このまま何も対策を講じなければ、今後も減少傾向が続くことが予想されている。そこで、人口減少が本県に与える影響を挙げ、それを解消するためにどのような取組を行うべきか、あなたの考えを述べなさい。 - 新型コロナウイルス感染症の影響により、地方に人が流れる「地方回帰」の機運が高まっている状況を捉え、鹿児島を活性化するために県としてどのような取組を行う必要があるか、あなたの考えを述べなさい。 - 三重県の総人口は、現在まで減少傾向が続いています。人口減少に係る問題は、一朝一夕に解決できない構造的な問題であり、その課題解決に向けては多岐にわたる分野の取組を結びつけることが重要です。今後、人口減少に歯止めをかけ、地域の自立的かつ持続的な活性化を図るためには、行政として限られた予算の中で、どのような点を考慮して対策を行えばよいか、本県において人口減少が進む要因と人口減少が本県にもたらす影響に触れたうえで、あなたの考えを論述してください。

東京都特別区I類の論文試験

① 論文試験の概要・傾向

実施日	一次試験と同日で概ね4下旬～5月上旬	 公務員のライトデータベース
試験時間	1 時間 20 分	
答案用紙	2 枚両面 (20 字× 20 行)	
字数規定	●1000 ～ 1500 字程度。 ●多くの合格者は、1100 ～ 1300 字程度で記載しており、他の自治体と比較して記載字数が多い。	
配点比率	配点等についての情報は公表されていないが、公務員のライトのアンケート調査結果から、論文試験の配点比率は非常に高いことが推定される。	
注意事項	論文の課題は「2 題」あり、試験開始後「1 題」を選択する。そして、選択した「課題番号」を、解答用紙の課題番号欄に記入する。	
近時の傾向	●2020 年以降の傾向は、課題①では「行政運営での課題」の視点から、課題②では「地域社会の課題」の視点から出題されている。 ●2024 年の特別区論文試験についての公務員のライトアンケート調査 (回答数 1793 人) では、課題①を選択した人が 6 割 (1140 人)、課題②を選択した人が 3 割 (653 人) となっており、課題①で書いた受験生の割合が多い。	
試験のポイント	●問題文中に現状や課題が誘導やヒントが示される場合が多く、注意深く問題文を読むことが重要になる。 ●問題文中の指示には、「特別区職員としてどのように取り組むべきか」という記載があり、特別区職員としての「立場」で記載することが求められる。 ●2020 年以降の傾向として課題①では、「限られた行政資源による区政運営 (2022 年課題①)」「先端技術を活用した区民サービス (2020 年課題①)」など「行政業務の効率化」という DX に関連したテーマが出題されている。また、課題②では、少子高齢化を背景としたテーマの出題頻度が高い。	

② 2025 年の出題予想 (4 テーマ)

①出題予想テーマ「少子化社会対策」
特別区では、これまで少子化対策として、切れ目のない子育て支援や、仕事と子育ての両立のための保育環境の整備など、積極的な取組を実施してきました。しかし、区によって差はあるものの、2020 年の特別区での合計特殊出生率は 1.12 人と全国平均 1.33 人を大きく下回っており、持続的かつ効果的な少子化対策が求められています。このような状況を踏まえ、出生率向上につながる少子化対策について、特別区の職員としてどのように取り組むべきか、あなたの考えを論じなさい。
②出題予想テーマ「女性の活躍」
近年、女性のライフコースの選択肢が多様になった一方で、「働いて自立したくてもできない女性」が増加しており、「働いて自立できる女性」との格差が拡大しています。例えば「非正規雇用の若年女性」は経済的に困難な状況に陥りやすく、コロナ禍の影響もあり、貧困問題が深刻化しやすい状況にあります。このような状況を踏まえて、経済的な困難など様々な生きづらさを抱える女性の支援に向けた取組について、特別区の職員としてどのように取り組むべきか、あなたの考えを論じなさい。
③出題予想テーマ「ゼロカーボンシティの実現」
近年、地球温暖化が原因と考えられる様々な気候変動による自然災害の発生が深刻化しています。2018 年に公表された IPCC (気候変動に関する政府間パネル) の特別報告書では、気温上昇を 2 度よりリスクの低い 1.5 度に抑えるためには、2050 年までに CO ₂ の実質排出量をゼロにすることが必要とされています。そこで特別区でも、脱炭素社会を実現するために、再生可能エネルギー電力の利用推進や、建物・住宅の ZEB・ZEH 普及の推進などの取組が重要となっています。このような状況を踏まえて、ゼロカーボンシティ特別区の実現に向けて、特別区の職員としてどのように取り組むべきか、あなたの考えを論じなさい。
④出題予想テーマ「災害対策」
昨年、発生した能登半島地震を始め、日本では近年、台風、豪雨災害、土砂災害などが頻発しています。また、その被害も大きくなっています。さらに、首都直下型地震の発生は、近い将来に高い確率で予測されております。首都直下型地震においては、その被害だけでなく、都内に最大 452 万人余り発生すると想定される帰宅困難者への対応も懸念されています。その被害を最小限に抑えることは自治体にとって大きな課題です。特別区の現状を踏まえ、災害に強い地域社会のあり方を述べた上で、災害に対する安全・安心の確保のために特別区が果たすべき役割について、あなたの考えを論じなさい。

マス目の使い方

① 段落のはじめは1マスあける

適切な例

○近年、我が国では地震をはじめ様々な災害が発生しています。

不適切な例

近年、我が国では地震をはじめ様々な災害が発生しています。

② 句読点は最後のマスに入れ文頭に出さない

適切な例

仕事と育児の両立の実現のために、行政の子育て世帯への支援の強化が必要だ。

不適切な例

仕事と育児の両立の実現のために、行政の子育て世帯への支援の強化が必要だ。


③ 閉じかっこは最後のマスに入れ文頭に出さない

適切な例

地域の子育て支援の取組として注目される「ファミリー・サポート・センター」

不適切な例

地域の子育て支援の取組として注目される「ファミリー・サポート・センター」


④ 算用数字は1マスに2字入れる

適切な例

我が国の高齢化率は、2023年には29.1%と過去最高を更新している。

不適切な例

我が国の高齢化率は、2023年には29.1%と過去最高を更新している。

⑤ アルファベットの大文字は1マスに1字入れる

適切な例

ICTを活用して、行政の仕事の効率化を進めていくべきだと考える。

不適切な例

ICTを活用して、行政の仕事の効率化を進めていくべきだと考える。

⑥ 「だ、である調」(常体)に統一する

適切な例

地域コミュニティの希薄化が課題である。今後の担い手不足が懸念される。

不適切な例

地域コミュニティの希薄化が課題である。今後の担い手不足が懸念されている。

ブロック①のポイント

① ブロック①の注意点

- **ブロック①**では、出題テーマの「**問題の現状**」「**問題の背景**」「**問題の要因**」などについて書く。もちろん、これらを全てをフルスケールで書く必要はなく、各テーマの**合格記載例**にある程度で押さえておこう。
- 試験の問題文に、「**～の現状**」「**～の背景**」「**～を推進する意義（必要性）**」「**～の要因**」を踏まえながら論じなさい。といった指示がある場合がある。仮に、**問題文**に指示が無い場合でも、上記のポイントに触れることで「**加点**」となることから、本書の各テーマでしっかりと押さえていこう。以下で、各文言の定義について説明する。

	意味	具体例
問題の「現状」	現在の日本社会（地域社会）での問題の状態のこと	• [少子高齢化の現状] 高齢化率●％・合計特殊出生率●％と、少子高齢化が進行している。 • [大規模地震の現状] 南海トラフ地震と首都直下地震の発生確率は30年以内に70％以上と想定されている。 • [自然災害の現状] 近年では、豪雨災害や土砂災害が頻発化、激甚化している。 • [子どもの貧困の現状] 子どもの相対的貧困率は約12％と高い水準にある。
問題の「背景」	現状の背後にある社会的な情勢のこと	• 少子化が進行している背景には、結婚・出産に対する価値観の変化や、仕事と育児の両立の難しさにより出産に希望を持つことが難しい状況がある。
取組の「意義」	取組によって実現できる価値や重要性のこと	• 男性の育児休業取得を促進することの意義 ⇒ 男性の育児休業取得が増えると、夫婦間での育児の分担が進み、女性の社会参加が可能となることから「女性が活躍できる社会の実現」につながる。
問題の「要因」	問題を発生させている 主な原因 のこと	• A県で人口減少が進んでいる要因 ⇒ A県での少子化の進行と、若い世代の県外流出。 • 地域コミュニティが希薄化している要因 ⇒ 価値観の多様化やオンラインでのつながりが増えたことで、近隣の住民同士でつながりを持たないライフスタイルが増えている。
課題	問題を解決するための 目標 のこと	詳しくは、ブロック②で

② 「問題の現状」について

- 「**問題の現状**」とは、出題テーマについての**現在の日本社会（地域社会）の状態**のこと。**直近3年間の出題**を見てみると、少子高齢化が進行している**現状**、地域コミュニティが希薄化している**現状**、地球温暖化が進行している**現状**、子どもの自殺が増えている**現状**など、それぞれの「**現状**」に触れるように指示があるケースがある。詳しくは各テーマで解説している。
- 本書では、**問題の現状**について「**高齢化率**」や「**合計特殊出生率**」などの指標を使って「**数値**」で表している部分がある。このような**指標**は、**受験先自治体の数値**で押さえておこう。

③ 「問題の背景」について

- 試験で問われる「**問題の背景**」とは、**現状の背後にある社会的な情勢**（社会の動き）のこと。**直近3年間の出題**を見てみると、「国が女性の社会進出を支援している**背景**（テーマ②）」「脱炭素社会への取組が求められている**背景**（テーマ⑭）」「デジタル化が進められている**背景**（テーマ⑥）」「A県が地方創生に取り組んでいる**背景**（テーマ⑧）」など、それぞれの**背景**に触れるように指示があるケースがある。詳しくは各テーマで解説している。

④ 「～を推進する意義（必要性）」について

- 試験で問われる「**～を推進する意義**」とは、基本的に「**その取組～がなぜ必要なのか？**」「**その取組が何に役立つのか？**」という意味である。例えば、「A県が地方創生を推進する**意義**」は「地方創生を推進することで、若い世代の県外流出に歯止めをかける**必要があるため**」となる。

⑤ 「問題の要因」について

- 「**問題の要因**」とは、**問題を発生させている主な原因**のこと。**直近3年間の出題**を見てみると、「A県で人口減少が進んでいる**要因**（テーマ⑧）」「男女共同参画の推進を困難にしている**要因**（テーマ③）」「女性の就業率が低い**要因**（テーマ③）」「人と人とのつながりが希薄化していった**要因**（テーマ⑪）」などが問われている。詳しくは各テーマで解説している。



合格記載例

ブロック①

ブロック②

ブロック③

現在、日本では少子高齢化が急速に進み、2008年をピークに総人口は毎年減少している。日本の高年齢化率は29%であり、世界でも最高の水準である。他方、日本の合計特殊出生率は1.20、年少人口比率は11.4%と低く、少子高齢化は深刻な状況にある。今後、少子高齢化の進行が加速すると、社会保障制度の持続可能性という問題や、労働力人口の減少による社会の担い手不足など、社会経済全体に重大な影響を及ぼすことになる。

このような状況のもと、政府は高齢社会対策の基本指針としてエイジレス社会の実現を目指している。そこで、A市でも、年齢にとらわれずに、その人の意欲や能力を活かして活躍できるエイジレス社会の実現に向けて取り組んでいく。以下、具体的に述べる。

第一は、健康寿命の延伸である。エイジレス社会を実現するためには、市民が歳を重ねても医療や介護に依存することなく、いきいきと健康を保つことが重要になる。そこで、市民の健康寿命を延伸するために、フレイル予防に取り組んでいく。例えば、体力維持のためのウォーキングや、筋力維持のための簡単な筋トレ、体の柔軟性を高める体操の習慣化を啓発していく。また、1日3食のバランスの良い食事や、筋力維持のためのタンパク質の摂取を呼びかけていく。このように、フレイル予防の習慣化により市民の健康寿命の延伸に取り組んでいく。

第二は、社会参加の促進である。政府の調査によると、社会参加の活動が多いほど、認知症やうつ病のリスクが低い傾向にある。そこで、フレイル予防や孤立防止のために、地域での「通いの場」の拡大に取り組んでいく。通いの場では、地域の特色を生かして、運動や体操による健康づくり、趣味による生きがいづくり、コミュニティでの仲間づくりなど「3つのづくり」をもとに多様な活動が行われている。このように、地域のフレイル予防、孤立防止の拠点として、高齢者のニーズにあった多様な通いの場づくりに取り組んでいく。

第三は、デジタルの活用である。民間企業の調査では、

少子化の進行を図る指標です。詳しくはテーマ②で説明しています。

総人口に占める「0歳～14歳までの人口」のこと。

簡単にいうと、15歳以上で働くことができる人口のこと。

「社会参加と介護予防効果の関係について」厚生労働省

NTTドコモモバイル社会研究所の調査によると、高齢者のスマートフォンの所有率は、60代が9割、70代が8割となっています。

高齢者のスマートフォン所有率は高い状況である。そこで、スマートフォンアプリを活用したフレイル予防を後押ししていく。例として、「オンライン通いの場アプリ」では、全国の自治体が作成した1000種類以上のご当地体操動画や、認知症予防のための脳トレゲーム、日々の食事バランスを管理する機能などがある。また、チャットで仲間と交流できるため、自分の趣味の合う仲間を見つけることもできる。このように、オンラインを活用したフレイル予防の取組を後押ししていく。

以上を踏まえて、人生100年と言われる時代において、急増する介護需要を抑制し、社会保障制度の持続可能性を図るためには、高齢期での「体」と「こころ」の両面から健康を支えていく必要がある。そこで、A市でも、栄養、運動、社会参加という三つの柱でのフレイル予防を浸透させていくことで、エイジレス社会の実現に向けて取り組んでいく。

1211字

★ブロック①の別記載例（自治体の数値で記載した場合）

現在、日本では少子高齢化が急速に進み、2008年をピークに総人口は毎年減少している。そして、A市の高年齢化率は●●%と（国より）高い水準である。一方で、合計特殊出生率は●●%と（国より）低い水準であり、少子高齢化の進行は深刻な状況にある。

このテーマのポイント

① 地域社会のデジタル化とは

- テーマ⑥では「自治体のDX」というように、DXの対象は行政機関であるが、ここで扱うテーマは「地域社会のデジタル化」であり、その対象は地域社会である。政府は、自治体DX推進計画での基本指針で、全ての地域社会のデジタル化を集中的に推進するとしている。

② 地域社会のデジタル化が求められる背景

- 今後、少子高齢化が加速すると、深刻な地域社会の担い手不足となり、地域機能や地域の活力を維持することが難しくなる。そこで、持続可能な地域社会を実現し、地域を活性化していくために、地域社会のデジタル化が重要になる。



③ デジタル化が進められている分野

- 地域社会でデジタル化が進められている分野は、地域活性化、住民生活、消防・防災、医療・福祉・健康、子育て、教育、農林水産業、商業、工業、観光、交通、土木・インフラ、文化・スポーツなどが挙げられる。ここからは、右のQRコードにある「地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】総務省」から、ピックアップした具体例を紹介する。



参考事例集

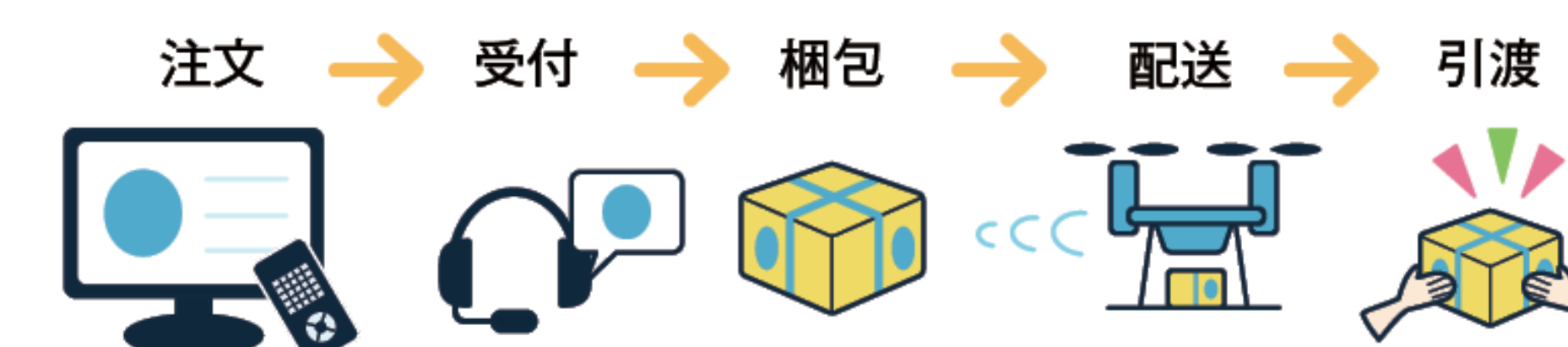
地域の活性化

- 江戸川区は、アプリを活用して「地域で困っている人」と「ボランティア」のマッチング事業を行っている。ボランティア希望者は、アプリで応募することで、町会・自治会の清掃活動などに参加することができる。会員の減少に悩む町会・自治会は、この仕組みで人手を集めることで、地域の活性化を図っている。



住民の生活

- 長野県伊那市は、免許返納等で買い物が困難な住民をサポートするため、地元スーパーの商品をドローンで配達するサービスを行っている。利用者は、自宅のケーブルテレビのリモコンで商品を注文し、購入代金はケーブルテレビの利用料金から引き落とされるなど、キャッシュレス決済となっている。商品はドローンで近くの公民館に届けられ、地域の支援員が利用者宅まで手渡すため、利用者の安否確認や見守りも行っている。



地域のインフラ整備①

- 練馬区は、街灯が切れていたり、公園遊具の破損、道路の陥没、ゴミの不法投棄などを発見した場合には、スマホで現場を撮影して専用アプリで区に連絡できる「ねりまちレポーター制度」を実施している。連絡を受けた区は、投稿内容を元に現場確認し、修繕等を行い、対応結果を投稿者にメールで通知している。



3 ブロック法について

「3 ブロック法」とは

- 3 ブロック法は、作文を3つのブロックに分けて書く型のことです。
- ブロック①では「**問いに対する結論**」を書き、ブロック②では「**自分の考えや経験したエピソード**」を書きます。そして、ブロック③では「**まとめ**」を書きます。このように、書く型を持っておくことで、試験本番でも書き方に悩まずに、タイムロスを防ぐことができます。

例題

公務員にとって大切なものは何かについて述べなさい。



ブロック①の例

私が考える、公務員にとって大切なものは、**市民からの信頼**である。これは、〇〇市をより魅力のあるまちにするためには、市民と行政との信頼関係が重要だと考えるからである。そして、私が市民との信頼関係を築いていくために重要と考えることが**三つある**。以下、具体的に述べる。

ブロック②の例

一つ目は、公務員としての「**誠実さ**」である。これは、～（続く）

二つ目は、市民との「**交流**」である。～（続く）

三つ目は、市民との「**協働**」である。～（続く）

ブロック③の例

以上のように、私が〇〇市の職員となったら、市民から信頼してもらえるように三つのことを心掛けていきたい。そのためには、～（続く）

本番試験で注意すること

- 本番試験では、まずは丁寧に問題文を熟読したら、**5～10分間**で問題用紙の余白部分などに、簡単に3ブロックの「**メモ**」を書きましょう。試験開始後、慌てて書き出すと、途中でペンが止まってしまったり、書き終えても一貫性のない作文となってしまうことがあります。そこでまずは、焦る気持ちを抑えて、しっかりと「**メモ**」を作成します。

ブロック①のポイント

- **ブロック①**では、まずは、問題文の「**問い**」に対して、**オウム返し**をしながら「**結論**」や「**そのように考えた理由**」について簡単に書きます。
- 例題は「公務員にとって大切なものは何か」ですので、自分が考えた「**結論**」である「市民からの信頼」と書いています。そしてできれば、そのように考えた「**理由**」も書いてみましょう。記載例では「〇〇市をより魅力のあるまちにするためには…信頼関係が重要だと考えるから」と書いています。
- そして、「私が…重要と考えることが三つある」というように、**主張の個数**と「**以下、具体的に述べる**」と書き、採点官が読みやすいようにブロック②へと繋げていきます。

ブロック②のポイント

- **ブロック②**では、「**一つ目は、～である。**」、「**二つ目は、～である。**」というように、**各結論**から書き出します。その後、あなたの考えや経験したエピソードについて具体的に書いていきます。
- このブロック②が、**記載する文字数が最も多い部分**になり、採点官もこの部分を特に評価します。そして、記載する文字数の量としては、ブロック①：②：③が、**2：6：2**程度を目安にしましょう。

ブロック③のポイント

- **ブロック③**では、「**以上のように**」、「**このように**」といった言葉から書き始めることで、採点官にまとめ部分に入る合図をします。そして、ブロック①・②の「**まとめ**」を書きますが、「私が職員になったらやりたいこと」など、将来の視点を入れ書いてもよいです。
- ブロック③は、ある程度準備しておくともスムーズに書けますので、あらかじめ準備しておくともよいでしょう。

合格記載例

問題 これまでの経験で、あなたが一番努力した経験を挙げて、そこから学んだこと、身に付けたことを述べ、また、それを市役所職員としてどのように活かしていくのか述べなさい。

ブロック①

私が、これまで一番努力した経験は、中学生から現在まで八年間続けたサッカー部での活動である。私は、このサッカー部での活動経験を通して、チームワークの重要性を学び、チームワークを高める思考力と行動力を身に付けてきた。そのなかで、私が特に意識して取り組んできたことが三つある。以下、具体的に述べる。

ブロック②

一つ目は、自分の役割に責任を持つことである。私は、重要な大会で、守備面でのチームの約束事を守らずに、不用意なプレーをしてしまい敗戦したことがある。その時は、自分のプレーによってチャンスを作り出せると考えたが、周りとの連携が取れず、逆に失点の起点となってしまった。このように、私の一つのプレーでチームを敗戦させてしまった経験から、チームワークを高めるためには、まずは自分の役割をしっかりと理解し、その役割に責任を果たすことが重要だと学んだ。

二つ目は、積極的にコミュニケーションをとることである。私が所属していたチームでは、守備面での連携不足に課題があった。しかし、試合中はプレーに集中しているため、選手間で密なコミュニケーションをとることは難しい。また、強豪チームとの対戦では、ひとつの連携ミスやズレから簡単に失点につながってしまう。そこで、日々の練習のなかで、小さな連携ミスが発生したときは、すぐにその場で互いの意図を確認するように徹底した。さらに、メンバー同士で、どちらが正しいのか判断できないケースであれば、チームミーティングで、他のポジションメンバーの意見を聞くことで連携力の向上に取り組んできた。このような経験から、チームの連携力を高めるためには、積極的なコミュニケーションをとり、互いの意見や考えを確認し合うことが重要だと学んだ。

三つ目は、チーム全体を考えることである。当時、チームの目標が県大会でベスト8以上であり、そのためにチームでは「柔軟な対応力」の向上

を目標に取り組んできた。これは、選手のミスや負傷交代など、想定外の状況があっても、常に前を向いて冷静に行動することである。特に強いプレッシャーのかかる試合では、想定外の状況に陥りやすく、このような状況でも「このチームであれば乗り切ることができる」とチームを信じてプレーすることが重要だ。そこで、チームの一体感を高めるために、私は、自分の事だけではなく、チーム全体の事に目を向けることを意識してきた。具体的には、落ち込んでいる選手には、積極的に声掛けをしたり、練習外の場面でも、相手の良い部分を見つけたらすぐに褒めるなど、チーム全体を考えた言動を心がけてきた。このように、日頃からチーム全体を考えて行動することが重要だと学んだ。

ブロック③

以上のように、私が〇〇職員になったら、これまでの経験で学び、身に付けてきた、チームワークを高める思考力と行動力を、住民対応の場面や、円滑な職場環境づくりに活かしていきたい。また今後、さらなる少子高齢化の進行のもと、行政は限られた人員と財源で複雑・多様化する行政課題に対応していかなければならない。そこで私は、企業やNPO、地域ボランティアなど様々な主体が協働できる関係づくりに貢献していきたい。

1293字

公務員のライトの「論文・作文」講座

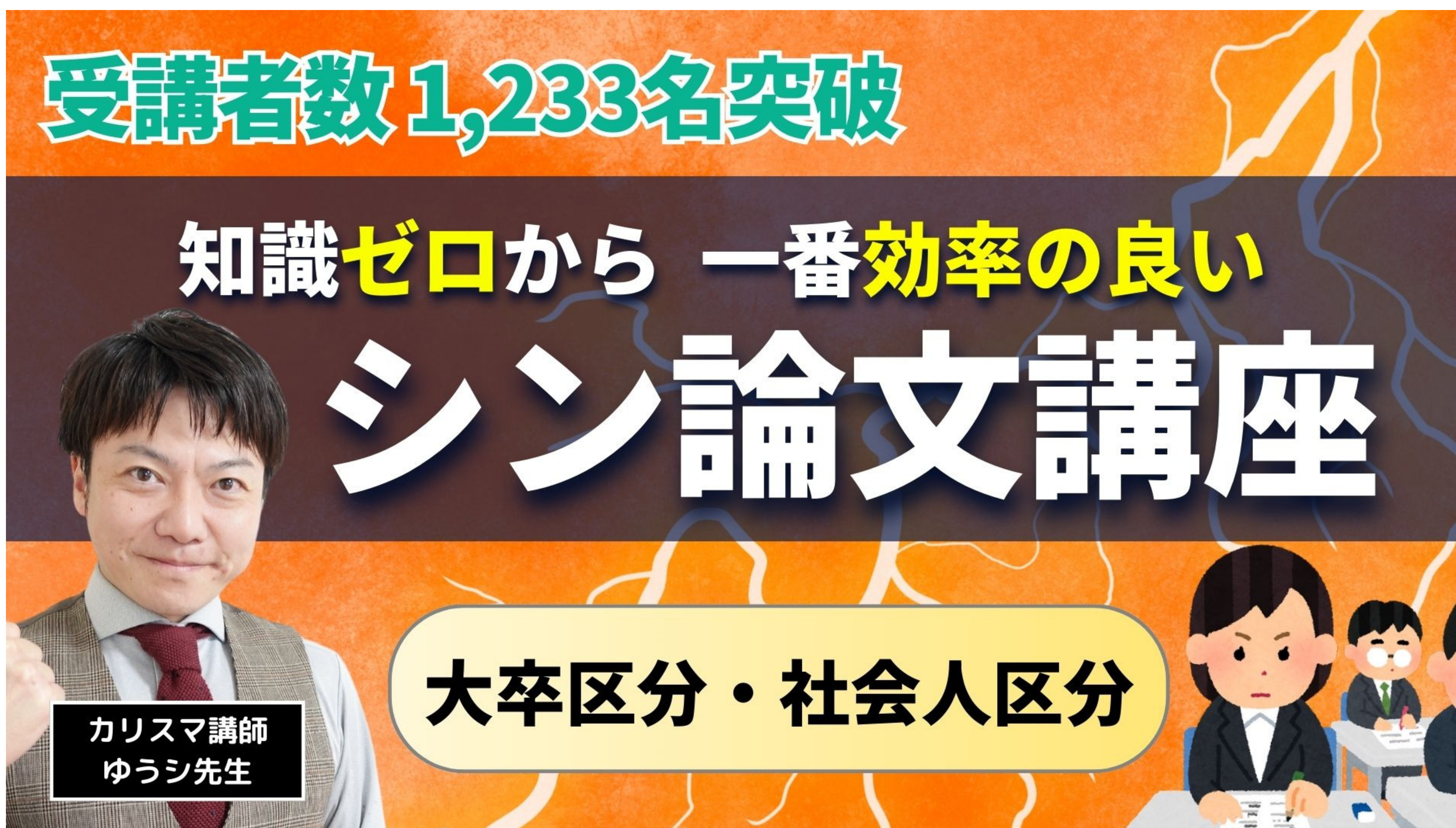
受講者数1,233名突破

知識ゼロから 一番効率の良い

シン論文講座

大卒区分・社会人区分

カリスマ講師
ゆうシ先生



まずは「無料」の
体験講義を見る



無料 LINEで受講相談実施中！

どんな質問でもOK

- ・ オススメの講座
- ・ 講座の内容
- ・ 決済方法
- ・ スケジュール...等



お気軽にお問い合わせください。

講座の詳細はこちら▶

